第二章　第百二十三師團の狀況

第一節　師團の編成より終戰參戰迄の狀況

要　旨

第百二十三師團は昭和二十年三月十日滿洲黑龍江省孫吳に於て編成せられたり。其の骨幹となりたるは獨立混成第七十六旅團なり。

編成當時に於ける兵の素質は不良にして而かも開戰迄に編成替へに次ぐに編成替を以てせる爲各部隊の團結、教育、訓練に大なる支障を來したり。

師團は斯る惡條件の下に萬難を排して作戰準備の爲の教育と築城を行ひたる結果、開戰時に於ては概ね防衛戰鬪の遂行可能の域に達しあり。

開戰時に於ける師團の戰力は編制裝備、團結、將兵の素質等を綜合すれば概ね步兵一聯隊を基幹とする一戰隊の程度と見て大差なし。

第一　師團の編成より昭和二十年五月末頃迄の狀況

0292

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、常駐配置　　附図第一の如し

二、作戦準備状況

イ、作戦計畫

師團の編成完結より昭和二十年五月末頃迄の間は期間も短かく且其の間編成非常に多く態勢亦浮動しありて作戦計畫を決定し得ざりし為旧獨立混成第七十八旅團の計畫を踏襲せり。

ロ、藥城

師團正面には奇兎將、勝武屯、埃墫、神武屯附近に直接点龍江に沿つて建造せられたるもの及北孫吳附近に建設せられたるコンクリート製永久藥城あり。本藥城施設は其の目的及守備兵力に於て現狀と相違あるのみならず施設稍く旧式にして予想する師團の作戦に利用し得るものは其の一部に過ぎざりき。

三、後方準備

師團は第四軍所屬の在孫吳各補給廠より総ての補給を受けあり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此等補給廠は從來の作戦準備の結果頗る膨大なるものあり。

ム、交通、通信

黑河、孫吳―北安―哈爾濱道及同上の鐵道（濱北線、北黑線）を主要幹線とせるも対空防護施設は無し。

対地上防護の施設としては主要なる橋梁にペトン製火点を有し平時は配兵しあらず。

江岸警備隊よりの警備通信は平素より完備せられ、軍司令部と各警備部隊間に直通電話を有し主要な警備部隊間には無線の副通信施設を有したり。

ふ、教育訓練

師團の教育訓練は予想する任務に基き左の諸項目に重点を置き專ら孫吳附近の防禦戦闘に應ずる教育訓練を實施せり

イ、既設陣地に據る防禦戦闘

ロ、対戦車肉迫攻撃

0294

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ、白兵格斗

ニ、通信及歩兵重火器教育並砲兵対戦車射撃

ホ、築城の教育

(イ)既設陣地に據る防禦戦闘

本教育の為師團は從來出入禁止地帯としてあつた孫呉附近の築城地帯に教育の為出入する事を得しめ各部隊をして予想占領陣地に於て實際に即したる教育を行はしめたり。

尊に於ては當師團及在神武屯第一二五師團に命じて小隊防禦戦闘、対戦車戦闘及道路の模範教練を計畫實施せしめ之を兩師團の將校に見學せしめて幹部教育を行ひたり。此の教育は素質低き將校等に非常に有効なりき。

(ロ)対戦車肉攻

本教育は特に重視し師團長以下悉く自ら肉攻の教育を受くると共に各部隊を奮闘し大いに教育を推進せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ハ) 白兵格闘

白兵格闘は當時の兵の素質、戦場の教訓等に鑑み上司より特に刺突（軍刀に於ても）を重視する如く指示ありしを以て此の主旨に基き軍並に師團に於て剣闘剣術競技会を催し相當の成績を收めたり。

(ニ) 通信、歩兵重火器、砲兵対戦車射撃各教育

師團の戦力上の弱点は特に通信及歩兵重火器教育にありしを以て、師團は全團或は師團の計畫に基く演習等を行ひ成果の向上を計りたり。

尚対戦車射撃に砲兵として最も緊要とする情勢なりしを以て配屬砲兵としての対戦車射撃につき十分の訓練を行はしめたり。

(ホ) 築城の教育

築城は師團作戦準備の重要事項にして五月下旬頃より全力を挙げて工事に着手せざるべからざるに、一般の之に關する知識は頗

0296

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

る不足なりしを以て軍は孫吳附近に一の模範陣地を造り之に依つて各師團に教育を行ひ、師團も亦之を利用して普及徹底を計り、築城開始迄には概ね工事の實行に支障なきに到れり。

6. 情報收集

師團正面の隊軍の情況及師團警備地區内の諸情報は黑龍江岸に直接配備せる監視部隊、關係憲兵隊等よりの通報に依るの外全滿の情報、滿洲國側の情勢等は軍よりの通報に據りたり。

7. 國境警備

烏蘇（一一小）、奇克等（一一中）、遜河（一一小）、勝武屯（一一大（一中欠）、十加（二一）に夫々警備隊を配置し之等の部隊より江岸の要点に監視哨を設置して対岸を警戒監視せしめたり。（附圖第一參照）

其の報告は直接軍に有線若くは無線を以て行ふことゝ規定せられたり。

0297

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、編制装備の變動

イ、部隊の編成（動員）、編成改正、復歸

師團の編成完結後凡そ一ヶ月半は比較的移動少なく教育訓練に専進し得たるも、爾後は關東軍の不断の編成改正に依り相次いで兵員の抽出、派遣等ありて部隊の内容は常に變化し部下の掌握、教育訓練に著しき支障を來したり。然れども部隊其のものゝ編制改正は無かりき。

第百二十三師團の編制及部隊長名は左の如し。

師團長	北澤貞次郎
歩兵第二百六十八聯隊長	山中高助
歩兵第二百六十九聯隊長	後藤三平
歩兵第二百七十聯隊長	太田紀一
野砲兵第百二十三聯隊長	町田賢助
工兵第百二十三聯隊長	広川文雄

0298

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

輜重兵第百二十三聯隊長　岡部武雄
連隊長　峯木義造
師團通信隊長　長谷川義雄
兵器勤務隊長　荷水吾一
病馬廠長　益本由成

2. 部隊の增加

昭和二十年五月中旬第四軍司令部の孫吳より齊々哈爾移動に伴ひ在孫吳兵器廠及第四軍所管の補給關係諸倉庫は悉く師團の指揮下に入り業務は著しく增大せり。

3. 兵器、資材

師團は編成早々にして兵器資材は十分とは云ひ難かつた。即ち師團全般として以方の關係資材は比較的充實しありたるも第一線兵器等に擲彈筒、歩兵直火器、砲兵挽具不足し、作戰時砲兵の機動力を欠く狀態なりき。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二　昭和二十年六月より終戦迄の状況

一、配置又は配備の變更

1、軍の方針は孫吳附近の主陣地にて抵抗し江岸に於ける大なる抵抗を期待せざる為逐次左の如く配置を變更せり。

A　奇兎特以東の江岸警備隊の兵力を縮少して要点に監視哨を配置するに止め、奇兎特には一小隊を配置す。

B　遜河の一小隊に奇兎特より撤退する一小隊を加へ一中（一小欠）とす。

C　勝武屯は前進陣地として最も重要なるを以て兵力を減少する事なく又部隊の素質も現役兵のみの部隊とし、編成替等に際しても人員の轉出入を努めて避け以て師團の部隊中最精鋭を期したり。

2、七月末第六國境守備隊を基幹として獨混第三十五旅團を編成せられ師團の指揮下に入らしめられたるを以て師團の守備地域は漸

0300

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大せられたり。之より先神武屯駐屯第一二五師團は六月通化方面に移動せるを以て其の担任しありし地域も師團の管轄となりたり。依つて師團長は獨立混成第一三五旅團長に対し旧第一二五師團の警備地區をも併せ警備を命じたり。

同旅團は黑河附近以北を歩兵一大隊を以て警備せしめたり。

3. 北安より移駐せる歩兵第二百六十九聯隊を孫吳の空兵舎に收容す。

二、作戦準備

イ、新作戦計畫

師團は六月頃迄に滅ね左の如き作戦計畫を立案す。但し立案當時尙獨立混成第一三五旅團の指揮關係明瞭ならざりしを以て之が明示と同時に所要の修正を行へり。

第百二十三師團作戦計畫の要旨

一、方針

一、孫吳附近の既設陣地を確保し敵を陣地内外に壞滅す敵若し一部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を以て我に対せしめ主力を以て南下する場合にありては敵の背後を脅威し軍主力の作戦を容易ならしむ。

二、止むを得ざるも既設陣地を死守し増援部隊の來着を待つ其の期間は概ね三ヶ月とす。

二、要領

一、蘇章の黒龍江渡河に當りては沿岸警備部隊を以て極力之を妨碍し其の渡河を遅滞せしむ

二、沿岸警備隊及監視哨は防衛の目的を達成せは敵と接觸しつゝ逐次主陣地内に後退せしむ。

後退の時期は監視哨は適時、警備隊は別命により、撤退に際しては所要の遮進部隊を各所に配置し敵を混乱す

三、前項各部隊の撤退に際し適時主要交通網を破壊し敵の前進を遅退せしむ

四、各部隊は各々其の陣地を固守す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、各部隊は盛んに逆襲斬込隊を派遣し敵の司令部、砲兵隊、戦車隊等を急襲し以て師団の戦闘を容易ならしむ

三、記備

陣地占領要領附図第三の如し

四、現地住民の処置

日本人（地方人、軍人家族、義勇隊等）は陣地内に収容し之を掩護す但戦闘参加を希望するものあらば死傷者の収容、看護、弾薬輸送等に使用することあり

五、補給

戦闘開始迄に陣地内に各富嶽守備部隊の三ヶ月分の糧食及少くも一会戦分の弾薬を集積す

六、通信連絡

通信起点は師団司令部の直轄とし第一線各部隊との間には有線通信網を構成す但し砲弾による切断を顧慮し地下埋設を行うと

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其に無線設備を十分に整備す

此の際無線探知による司令部位置の標定を顧慮して無線發信所の位置を選定す

軍及其の後方との連絡は作戦開始と同時に常設有線通信を從とし無線通信を主とす

七　築城

築城は漸進構築法により、五月末迄に一般野戦築城を、七月末迄に野戦に於ける大口徑砲の遠距射擊に抗し得る如く地下設備を構築す

2. 新施設及築城旧施設の処置

軍の作戦計畫に據り五月中旬頃より孫吳附近新陣地の構築に着手す。

師團は最初より補堅固なる野戦陣地の構築を企図したるも、軍の指令に基き左の如く漸進構築法により作業す

0304

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一次　五月末迄　略ぼなる野戦陣地

第二次　七月末迄　堅固なる野戦陣地に増強

右の構築中餘裕ある部隊は更に地下十數米に及ぶ地下施設を構築し、尚武器、弾薬、糧食收容の為師團經理部及兵器部に於て夫々地下施設を構築せり。

右の外師團の作戦計畫に基き既存の陣地中防禦戦闘に利用すべき部分の補修、対戦の清掃、通信網の整備補修を行ひたり。

(ハ)當初軍は状況により隷下の二ケ師團を孫呉附近に集結して防禦戦闘を實施する場合あるを考慮し師團は二ケ師團を收容し得る陣地を構築せしめられたり。

其の後神武屯の師團南方に移動するに至れるも陣地は依然として繁榮せられざりき。

又綏陽―二站―東江―齊々哈爾道掩護の為二站附近に歩兵二大隊、砲兵一大隊を基幹とする部隊の為の陣地構築を命ぜられたり。

0305

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ)歩兵陣地

敵の熾烈な砲撃、飛行機の爆撃及対地攻撃並に戦車の攻撃を顧慮して散兵坑を為し得る限り分散配置し且陣地直前及陣内到る処に戦車肉迫攻撃の為の潜伏坑を配置す。

歩兵重火器は陣地の内外を斜射側射する如く置き且各々若干の予備陣地を設けたり。

(ハ)戦車に対しては砲兵の主力を第一線歩兵大隊に配属し之を歩兵陣地内に分散秘匿する如く陣地を構築す。

又三角断面の対戦車壕を陣地直前に構築し之を側防し得る如く砲兵陣地を配置せり。

尚師団陣地北側の谷地には谷流を利用して氾濫を起し得る様に準備す。

(二)砲兵陣地の内一部は砲兵隊長の直轄として陣地の中央附近に設備せり。既設陣地内に在りし二四榴四門は其の儘現位置に置き

0306

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

たり。

(ホ)主要通信網は地下に埋沒せり。

(ヘ)各部隊の占領地區内には當該部隊の為の彈藥糧食の集積所を設備せり。又時間の餘裕に從ひ地下若くは山腹に深く洞窟を堀開せり。

(ト)二師の陣地は機動部隊に若干の師團工兵隊を配屬して構築を開始せり。時既に七月中旬なりしが督促之努めたる結果七月末頃辛うじて野戰陣地を完成せるも彈藥、糧食の集積は甚だ不十分なるものなりき。

3. 後方(兵站)關係

第四軍司令部移動以後に於ける補給は直接師團に於て現地の着陸より行ひたり。

軍需品は壁書にして作戰には十分間に合ふ丈の數量を有したり。

兵交通、通信

0307

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍の設備を其の儘師團に引繼ぎたるを以て特に變更の必要なかりき。

5. 教育、訓練

特に教育訓練の變更を來したるものなきも、人員の移動、編成攻正等頻繁に行はれたるとかつ其の當時陣地構築に全力を挙げて着手し各部隊は工事の現場に起居して是に專念しありたる為、教育訓練の必要を痛感しつゝも徹底せる教育を行ふを得ざりき。各部隊は工事現場に於て朝夕の餘暇を利用し射撃、肉攻、銃劍術等の教育を行ひ技能の涵養と士気の昂揚を図りたり。

6. 情報收集

第四軍司令部の移駐に伴ひ情報は各江岸監視部隊より直接師團が受領することゝなれり。加之情報收集の範圍は広大なる地域に擴張せるを以て通信連絡の設備を一層整備し且黑河特務機關及憲兵隊と連絡を密にして万全を期したり。

0308

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、編制、裝備の變動

1. 部隊の編成

(イ) 六月末師團進進大隊を編成せられたり。

長は砲兵大尉　鷲木甚逸　人員　一一一三名

(ロ) 七月末孫吳憲兵隊は廢止せられ、憲兵其の他の部隊を以て特別警備隊を編成せらるゝ事となり、師團は大いに其の編成を援助したが開戰迄に編成完結せず。

長は憲兵少佐　田中是直なり。

2. 兵器資材の變動

(イ) 兵器資材關係に於て師團が最も不安に感じたるは対戰車爆薬の不足なりき。

師團は百方手段を尽して之を製造し各部隊に分配せるも其の數少く所望の量に達し得ざりき。

(ロ) 開戰直前「武屯」警備隊にある十加及其の弾薬を抽出轉用すること

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

となり、其の大部を輸送し終りたる時開戦となり、師團は十加一門と少數の彈藥を有するのみとなれり。

(ハ)孫吳に在りたる築城及建築材料を軍命令により多量齊々哈爾方面へ輸送せり。

第三　対蘇作戦實行期の狀況

一、蘇聯參戦直前の態勢

イ、兵力配置

附図第二の如し。

ロ、戦力狀況

蘇聯參戦時に於ける師團の戦力は冒頭に記述せる如く其の實力歩兵一聯隊、砲兵一大隊を基幹とせる支隊程度なり。尚獨立混成第百三十五旅團の戦力は、師團に比し團結、築城、訓練等遙かに優秀なりし為、實力に於ては師團と大差なきものと判断す。

一同旅團は從來の既設陣地で戦闘を終始せり。

0310

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右の外開戦に方りては當時孫吳に在りたる左記部隊は別命なく師團に配屬せらる。

(イ)關東軍特種情報隊の一部

(ロ)關東軍防疫給水部孫吳支部

(ハ)特別警備隊の一部

第十八野戦兵器廠にルノー旧型戦車及装甲車各一台ありしを以て陣地の中央に秘匿配置せり。

尚部隊中には朝鮮人にして初めて徴兵として入隊せる者及開戦直前招集せられて入隊せる者多數ありたり。

3. 作戦準備の程度

孫吳附近の陣地は計畫に基き概ね七月下旬頃構築を了りたるが更に時間の許す限り補強する目的を以て地下宿營所、弾薬集積所等比較的深き地下工事に着手せるも未だ完成せざるに開戦となれり。陣地は直ちに作戦に支障なき状態なりしも弾薬糧食の集積は未だ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十分ならざりき。

依て師團は為し得る限り遠かに計畫に應ずる彈藥糧食の集積に着手せるも當時連日の降雨の為道路泥濘を極め自動車の運行意の如くならず所要の數量を集積し得ざる間に戰鬪開始となれり。

各部隊の狀態

部隊は概ね作戰計畫に基き守備陣地に在つて築城作業を行ひありたるを以て開戰と共に第一線部隊は若干の配備變更を行ひたるのみにして直ちに其の畫戰鬪の態勢に入りたり。

關東軍特種情報隊は予定計畫に基き師團司令部附近の陣地に、防疫給水部は師團予備隊の位置たる陣地中央の凹地に位置す。第十八野戰兵器廠は所命の位置に就く事なく陣地外の既設陣地に入りたり。

遮斷立河を隔てゝ主陣地に対する南陽山（勝武屯―北安道上）は勝武屯警備隊撤退の後之を占領する豫定なりしが戰況之を許

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

さるを深じ、師團進進隊をして之を占領せしめ進進攻擊の減点とし併せて敵の南下を阻止せしむることゝせり。而して勝武屯營偏隊は直路主力の陣地内に後退して師團豫備隊となる如く計畫を變更せり。

二、蘇連參戰當時の情況

1. 作戰に影響せる天候氣象

七月末頃より八月初頭に亘り降雨連續し、開戰當時は孫吳附近の道路は軍隊の通過に非常な困難を來したり。又孫吳―北安―哈爾濱道は河川氾濫して通行至難になれるのみならず、哈爾濱―孫吳間の鐵道も亦通行河の氾濫により作戰初期より一貫せる運行不能となり途中徒歩運搬によるに至れり。

2. 作戰直前に師團の得たる敵情

全般情勢に關しては軍より何の通報も受領せず。師團としては何等判斷すべき情報なく單に新聞等に依り當分蘇軍の出擊は無かる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

へく若し有りとすれば冬春不戦条約満了後なるべしと推測しありたり。

五月末頃より師團警備地域の対岸にて蘇兵の演習繰り返され且之と同時に奇克特前面の引込線に卸下施設らしきものを設備せるも師團は蘇軍演習の為の施設なるべしと判断しありたり。

八月初頭奇克特前面の河岸に蘇軍將校五六名出現し地図を案しあるを目撃す。

又概ね其の頃軍参謀牧大佐は飛行機により黑龍江に沿ひ師團作戦地域の上空を飛翔し敵地區の極めて平穏なるを報告せり。

三、爾後の作戦經過

作戦第一日（八月九日）

五時頃滿洲國の東西兩國境を突破して有力なる蘇軍進入を開始せる旨の通報あり。

師團は直ちに之を隷下諸部隊に傳達し戦闘配置に就かしむると共に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

引續き陣地の補修、兵器彈藥、糧食の集積を一層強行すべきを命令す。

機甲部隊の陣地占領に關しては軍司令官より特に「一部を以て機甲附近を主力を以て二站附近を占領せしむべき」旨命令せられたり。軍としては敵機械化部隊の直路灣々哈爾に突進するを顧慮したる為なり。然れども二站附近の陣地は構築着手遲かりし為開戦當時に於て辛うして輕易なる野戰陣地を構築したる程度にして彈藥糧食の集積殆んどなく頑强なる抵抗は到底期待し得ざる狀態なりき。從つて今之に有力なる機甲部隊の主力を投入して防禦せしむる事は師團の戰力を著しく減殺し結局軍の為に有利ならざるべき見地より、一部を以て二站、主力を以て機甲を防禦する樣再三意見を述べるも軍の容るゝ處とならず。遂に師團長も亦混成旅團長に命ずるに軍司令官の意図を以てせり。

獨立混成第一三五旅團長は師團の意見が軍司令官に容れられざるを知り、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

るや師團命令にも拘はらず、主力を城壁に一部を二站に配置して戰鬪準備を整へたり。

師團司令部は十八時陣地内の予定位置を移動し孫吳街の司令部廳舍は之を燒却す。

江岸警備隊及監視哨は一層監視を嚴にし且敵の渡河企圖に対し特に十分なる監視と迅速なる報告を行ふ如く指導せるも此の日勝武屯対岸及奇兵寺対岸附近の熱鬧江上に中型汽船の上下航するを散見したるのみにして平靜なりき。

師團は敵の渡河を今、明日中の夜間ならんと判断し、眞面目の戰鬪開始迄に為し得る限り多くの弾薬資材及糧食を陣地に搬入する如く督勵す。

然れども數日來の降雨の為道路破損し集積容易に進捗せず。

作戰第三日（八月十日）

狀況は概ね前日に同じく敵の偵察飛行艦んに行はる。

0316

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昨夜以來有力なる敵部隊黑河上流方面に於て渡河を開始し、呼瑪及其の下流の沿岸警備隊の消息不明となり、全滅の報亦頻りに傳へらる。師團は敵の眞面目の渡河は或は此の方面より行はるゝに非ずやとして警戒を嚴にす。

本日以降黑龍江省内に居住せる在鄉軍人は三々五々隱召して陣地に直接入隊し來れり。

作戰第三日（八月十一日）

本日敵は勝武屯及瑷琿正面より一斉に渡河を開始し夜に入るも之を續行す。谷江岸警備部隊に予定計畫に基き戰鬪を開始し、就中勝武屯の村上警備隊は警戒之努め遂に壊滅せられたる十加を以て黑龍江河畔に散陣しある敵渡河化他兵と交戰し相當の損害を與へたるも彈丸不足の為極度に節約しつゝ好機に拔して射擊す。

此夜彈薬補充の為第一線隊より三回に亘り村上部隊に小隊を派遣せる目的を達したるは一回のみにして他の二回は既に我が警備部隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を浸透して進入せる敵小部隊の為阻止せられ目的を達成し得ず。

作戦第四日（八月十二日）

蘇軍は昨十一日に引續き綏芬河を渡河し勝武屯及墾埠陣地を攻撃す。

師團は當初勝武屯の警戒陣地は軽戦の後後退せしむる計畫なりしも、主陣地内の弾薬及糧食の集積準備若望通り容易に進捗せざりし為止むを得ず時間の餘裕を得る目的を以て、村上勝武屯警備隊に別命ある迄頑強なる抵抗を續行すべきを命じ且弾薬糧食の集積を一層督促す。各部隊就中輜重隊は必死の努力を繼續し悪路を排して集積に努力す。

此の日夕刻軍より敵の綏芬河半渡に乘じて出撃を慫慂し來りしも、敵機械化部隊既に墾埠方面に於ても渡河しある現況に於て妄りに陣地を捨てゝ遠く勝武屯方向に突進することは航空及戦車等の支援を期し得ざる現況に於ては適當ならずと認め實行せず。

此の夜師團配屬の關東軍特車情報隊より敵の有力なる機械化部隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

らしきもの遼陽方面にあり又別に同様有力な戦車部隊らしきもの奇兎特附近より南進し遂次遼河（地名）に近接しつゝあるものゝ如し」との電波情報を提出せり。

依て師團は一中隊歩兵第二百六十九聯隊を採果一遼河（地名）道上既設前進陣地に急派し、勝武屯警備隊の右翼に連繋して陣地を占領し遼河方面より前進する敵を阻止せしむ。

此の日師團當面の敵兵力を左の如く判断せり。

イ、勝武屯及奇兎特附近より渡河しつゝあるもの

歩兵師團　二　機械化兵團　一

ロ、遼陽方面より渡河しつゝあるもの

歩兵約半師團　機械化兵團　一

尚黑河附近及其の以北より若干渡河したるものあるも詳細不明なり。

師團は敵の逆攻を顧慮し半醴泉の宿舎、兵營、倉庫其他敵の利用の虞ある諸施設を敵に近き方より逐次焼却を開始す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

作戦第五日（八月十三日）

本日敵の渡河及前進部隊に対する攻撃は活潑ならず。

作戦第六日（八月十四日）

師團の弾薬及糧食の集積は概ね目的を達成（弾薬は概ね一会戦分を集積し糧食は若干予定より不足）せるを以て全般の狀況上師團長は十四日二十四時先づ平間部隊を引續き勝武屯の村上部隊の撤退を命ず。

夜に入ると共に勝武屯陣地に対する敵の攻撃は猛烈を極め其の主力は勝武屯と平間部隊陣地の間隙に深く侵透し來ると共に敵の戦車は勝武屯一孫吳道を突破して孫吳方面に突進し來れり。又奇克特附近より渡河せる敵機械化部隊は河岸に沿ひ勝武屯に近く蔓動し來れり。平間部隊は師團命令に依り夜半陣地を撤して主陣地に向ひ後退中、遜年江河とエユル河との合流点附近に於て濃霧中勝武屯方面より南下し來れる餘軍戦車隊と不意に衝突し、平間少佐は戦死し其の他の

0320

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

者は遙華江河を渡り南陽山附近に集結せり。遙河（一地名）を經て平間部隊正面に進出せる敵は歩兵一小隊に過ぎざりき。

勝武屯警備隊は本夜半有力なる敵戰車に陣地を突破せられ、蘇軍戰車隊急襲攻撃、勝武屯街道を南下す。

師團は工兵隊をして街道上の橋梁を破壞せしむると共に直轄せる遊撃隊を派遣し且師團砲兵大隊、第一線部隊をして猛烈なる遮斷攻撃を行はしむ。

勝武屯警備隊（村上部隊）は連絡斷絶して無線呼出にも應ぜず傳令も傳達困難の狀態に陥りしが遂に同部隊より「下士官連絡に來り「受信裝置は破損し暗号書亦焼却し終りたるも、受信裝置は健在する」旨報告ありしを以て師團は生文を以て後退を命令し續けたるも遂に同部隊の一部の歸還を見るのみにして主力の狀況は不明に終れり。

（後に此の部隊は北安方面へ脱出したることを判明す）

瑷琿方面に在りても敵は逐次陣地に接近して來たれるも前進部隊の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

勇敢なる防禦戰鬪と挺進部隊の敢鬪により敵の前進頗る鈍く、逐次主陣地帶の攻擊準備につきつゝあり。

作戰第七日（八月十五日）

蘇軍は孫吳に勝武屯道上の橋梁を修理して逐次進出し鄭家窩棚の飛行場附近に集結し又一部砲兵は陷行社附近に進出して陣地を占領す。師團は一部砲兵を以て之を射擊す。

此日敵の歩兵斥候は主陣地附近に潛入し來れるものあり。又戰車並に敵騎兵等が陣地直前に逼迫せり等流言蜚語盛んに發生す。師團は本夜歩兵第二百六十九聯隊を以て飛行場附近の敵を攻擊するに決し、種々準備豎策する処ありしが其の實行に至らずして停戰する事となれり。

十五時過擊より「本十五日正午重大御放送あるに依り謹聽すべし」との來電あり。時既に遲く總取の機を失したるも十七時頃配屬關東軍特情隊より日本降伏の放送をなしありとの通報に接し、師團長以

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

下愕然たるものありしが眞偽を尙確認する必要もあり隷下一般の士気に關する問題もあるに依り一應外部に發表することなく世界各地の無線放送を聽取せしめしが愈々其の眞實なるを認め、二十時頃各部隊長の集合を命じ日本の無條件降伏を傳達すると共に擧挙妄動して大局を誤ることなき様肇淚共に下るの師團長の命令並に訓示を傳達す。

獨立混成第一三五旅團に対しては電話故障の為十分師團長の意図を傳ふる事能はざりき。尙當時無線は不通なりき。

作戰第八日（八月十六日）

師團長は停戰の大命により片山參謀を軍使として陣地外に差遣し蘇軍に対し停戰を申し込みたり。

片山參謀は蘇軍司令官と会見し概ね左の如き蘇軍の條件を聽取して正午頃歸還す。

一、日本軍は本十七時迄に一切の戰鬪行動を停止すること

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、日本軍は明十七時迄に陣地内指定の位置に武器を集積したる後隊
　　兵官舎地帯に全員集結のこと
三、通信連絡機関は一切使用を禁じ隊員に徹底すべし
四、爾今一切の海岸砲撃、武器、資材の破壊焼却を禁止す
五、石の新築頭を犯す時は直ちに敵撃を開始し殲滅す
　　尚第二項の兵器集積所は陣地内五ケ所に指定せられ現地に於て集積致量を記録せる書類と共に安全の為差出せらるゝ隊員将校に引渡すこと
　　師団長は右の諸条件を何等の訂正なく真の誠受領するに決し再び斤山参謀を交渉の為差遣す。
尚隊軍司令官より師団長に対し明十七日正午孫長鎮十字路附近に於て会見を申し込み来りたるを以て師団長之を承諾す。
此夜各部隊は多少の動揺を辞して命令の通り停戦の主旨を一般兵に至る迄徹底せしめ武器を集積し、集合位置に到る準備を整へた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

り。

軍旗は午前五時迄に無事奉還す。

尚同部少佐の指揮する第五兵団第一二三部隊は同少佐の命により部隊を解散せるを以て同部隊の兵は三々五々行動するに至れり。

（昭和九年九月十七日）

部隊は概ね豫定の通り集結す。

師團の人員は歸還と共に帰郷者、義勇隊員等を收容して陣地に就きし際は僅ね二万七千名なりしが本日集結地に集合せる人員は概ね一万五千名に過ぎず。

師團長は隷軍第二軍司令官セジュー中将と会見の後集結地に到れり。

本日に到るも尚現地及二站の陣地占領部隊は各所に散在する撤退隊は未だ戦闘行動を停止せず、果敢なる戦闘を継續するもの鮮からず。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團は停戦命令の徹底を期する為停令其他為し得る限りの手段を講じたるも容易に所期の目的を達することを得ず。

作戦第十日（八月十八日）

鮮軍側の調査開始せらる。

調査官は主として鮮軍司令部關係の將校にして我が師團長以下各級幹部に対し執拗綿密に行ひたり。

調査は八月二十五、六日頃迄継続され、最初は主として師團の人員と引渡兵器の員数の照合を厳密に行はれ、其後各調査官の担任事項に基き師團の作戦計畫、編制装備、教育、築城等各般の事項に亙て調査せらる。

四、彼我の損害

イ、我が損害

師團の戦闘は主として前進部隊及延進部隊を以て行はれ且終戦と同時に通信網を制せられ且戦闘實行の現地に行く事も禁止せられ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

し為損害の實數を知得する事を得ず。

只作戰開始當時總數二万七千名の人員は終戰後集結せるもの約一万五千名にして約一万二千名の差を生じたり。此の中大多數は隨意に部隊を離脱して北安方面に逃避せる者にして實際の戰死者は約五〇〇名程度と判斷せらる。但し孫吳より脱出した者の中途中滿、鮮人若くは蘇軍の襲撃を受け死亡せる者は鮮少ならざるべし。又北安迄離脱して遂に到着せられたる者も多數ありたり。

ハ. 蘇軍の損害

蘇軍の損害に就ては不明なるも勝武屯衛備隊及墾運陣地の戰鬪に於て相當の敵を殺傷したる事は事實なり。又二站陣地に於ては敵戰車に若干の損傷を與へたり。

五、終戰後の情況

イ. 蘇軍の行動

師團と交戰したる蘇軍部隊は約一週間程孫吳附近に滯在したる後

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

哈爾濱方面に南下せり。

右の跡には内務人民委員部の中佐を長とする警備隊殘留し治安警備に在ず。

2. 師團の給養は我軍の陣地内に集積せる食糧を使用す。

蘇側は定量使用して可なる旨指示せるも師團は前途の見通しつかざるを以て定量の七割を使用する事とせり。

3. 建設隊の派遣

八月下旬頃より九月初旬に亘り蘇軍は孫吳官舍地帶に集結せる師團を千名宛の部隊に區分編成し之を建設隊と呼稱し、其の行先を巧みに僞瞞しつゝ蘇領内に誘導せり。

九月十日頃迄に主隊を出發せしめ後には尚若干の將校、患者等殘留せるも、之も間もなく蘇領へ移送せられたり。

第四　其の他の狀況

一、在留邦人、開拓團等の狀況

0328

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

孫吳附近の在留邦人は極めて少數なりしを以て悉く軍人軍屬の家族と行動を共にせしめたり。

開戰と同時に計畫に基き家族、在留邦人は悉く師團の陣地内に在る歩兵第二百九十八聯隊、同第二百七十聯隊等の兵營内に收容す。然れども作戰經過を考慮し遠かに後方哈爾濱へ後退せしむることに變更し、八月十二日出發全員北安方面へ後退せしめたり。

愛琿附近の一般邦人及軍人家族は當初豫定に基いて龍城の電語を定め陣地内に入りたるも、戰鬪開始後其の不利なるを知り十二日夜遂に孫吳附近に後退し來れり。然し乍ら時既に孫吳・北安間の鐵道不通となりし為止むを得ず孫吳の經軍官舍の一角に集結せる盛停戰となりたり。

ダイガク開拓義勇團の生徒は一部直路北安方面へ後退せるも大部は孫吳の陣地内に收容して後方勤務等に從事す。

二、滿洲國政府機關

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

松本黑龍江省長は部下若干名と共に黑河より引揚げ師團司令部へ來着せり。師團長は省長の希望に基き新京に後退して狀況を滿洲國政府に傳達する為証明書を與へて去らしめたり。其の他の多數日系官吏は皆師團の陣地内に入り或は北安一孫吳地區に在りて防禦戰鬪に或はゲリラ戰に從事せり。

三、滿洲國軍及警察の狀況

開戰前に於ては滿軍の一師團四站附近に在りて瑷琿一齊々哈爾道を守備する為陣地の構築に任じ又二站附近にも若干の滿軍陣地構築に當りありしが其後の狀況は不明なり。四站附近の滿軍は日系將校を殺し四散せりとの事なり。

四、滿人、鮮人の狀況

戰場附近に於ては動搖はありたるも敢て我軍に対して積極的に不利を図る如き事はなかりき。

但し我軍の離隊兵を襲撃して之を殺害し或は戰死者の兵器裝具を奪

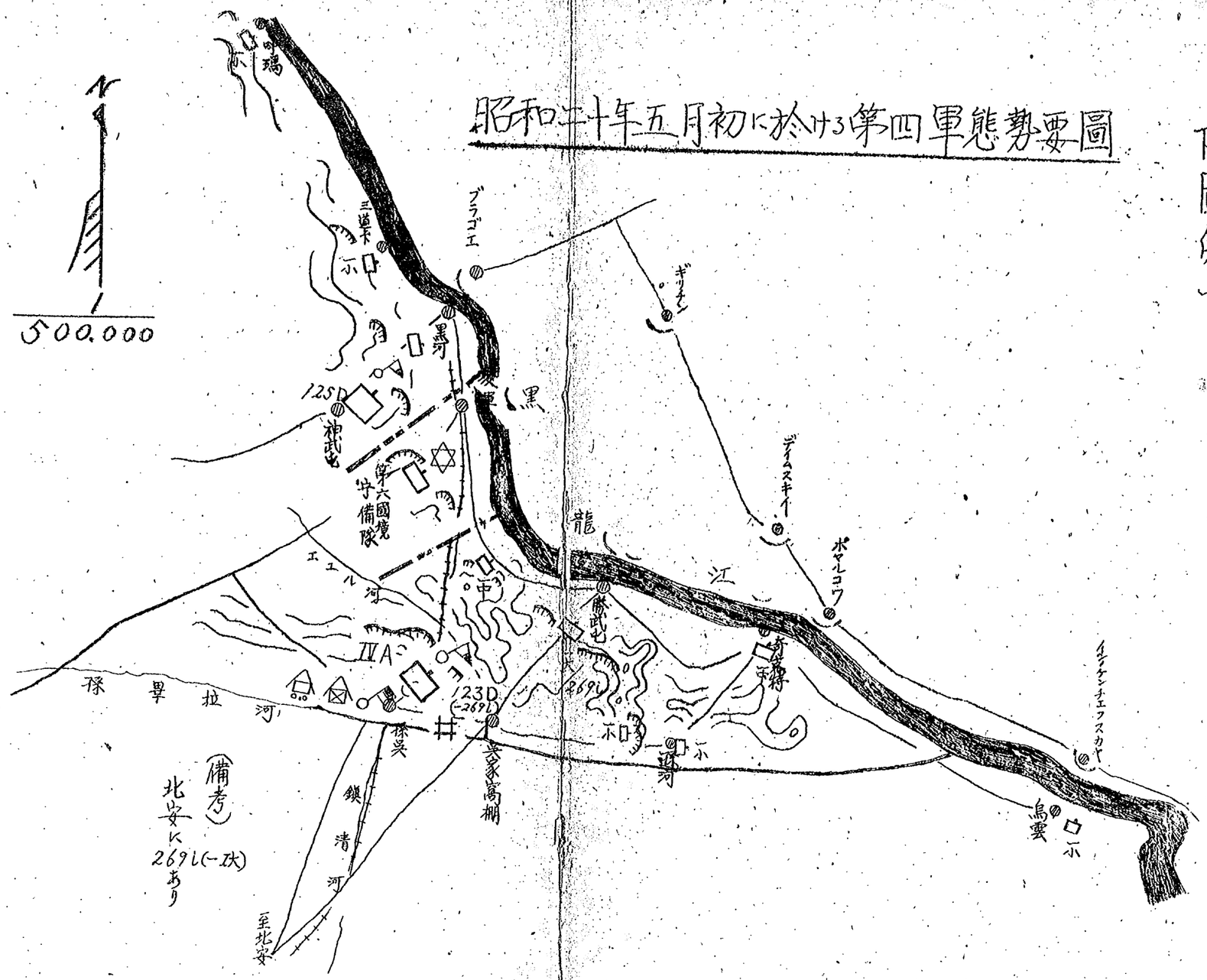
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

導し又は官舎其他の空屋より家具物品を盗む等のことは多々ありたり。孫夫より後退せる邦人及軍人家族等は北安に於て猛烈なる掠奪を蒙り殆んど着のみ着のまゝとなりたり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第一

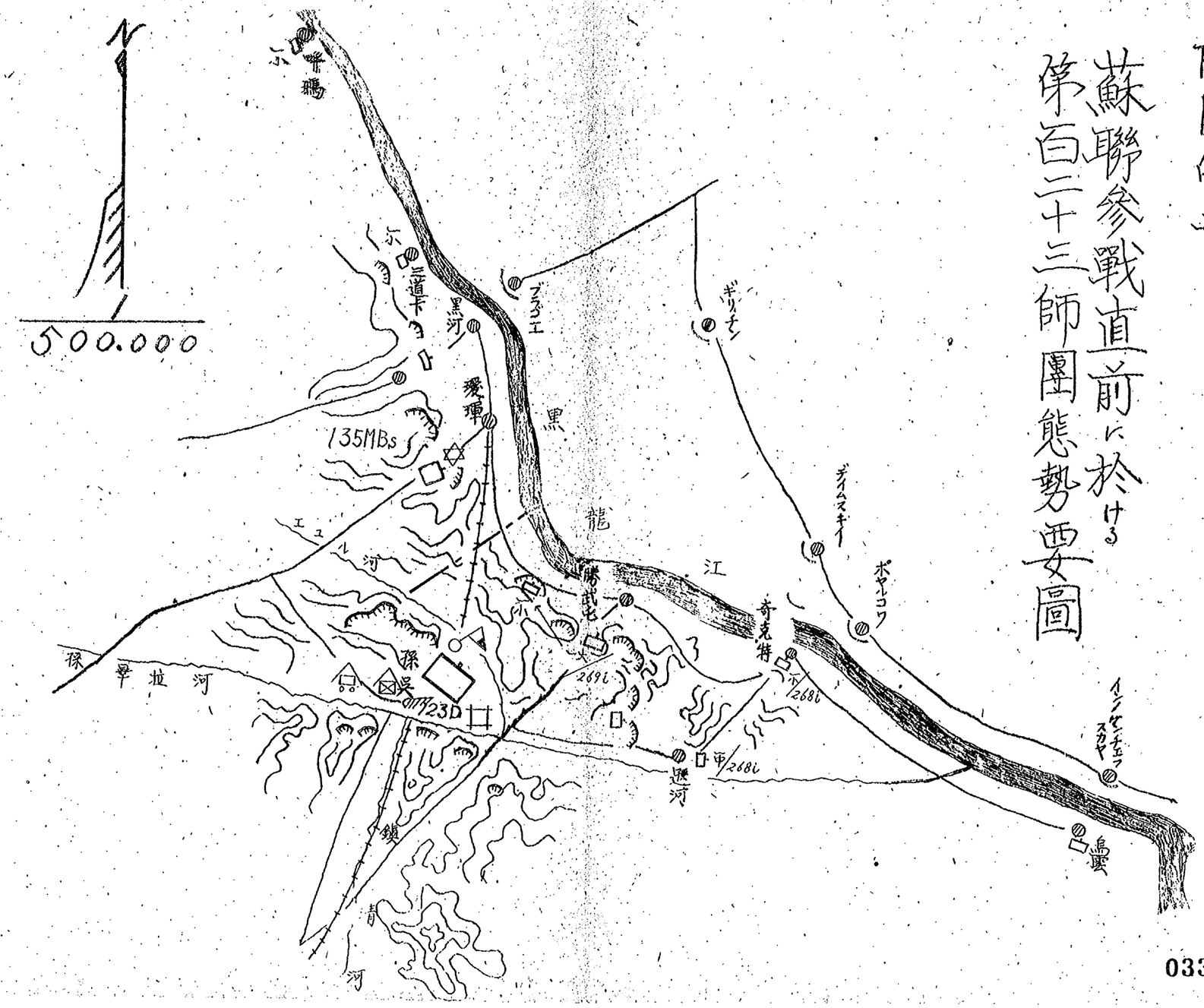
昭和二十年五月初に於ける第四軍態勢要圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第二

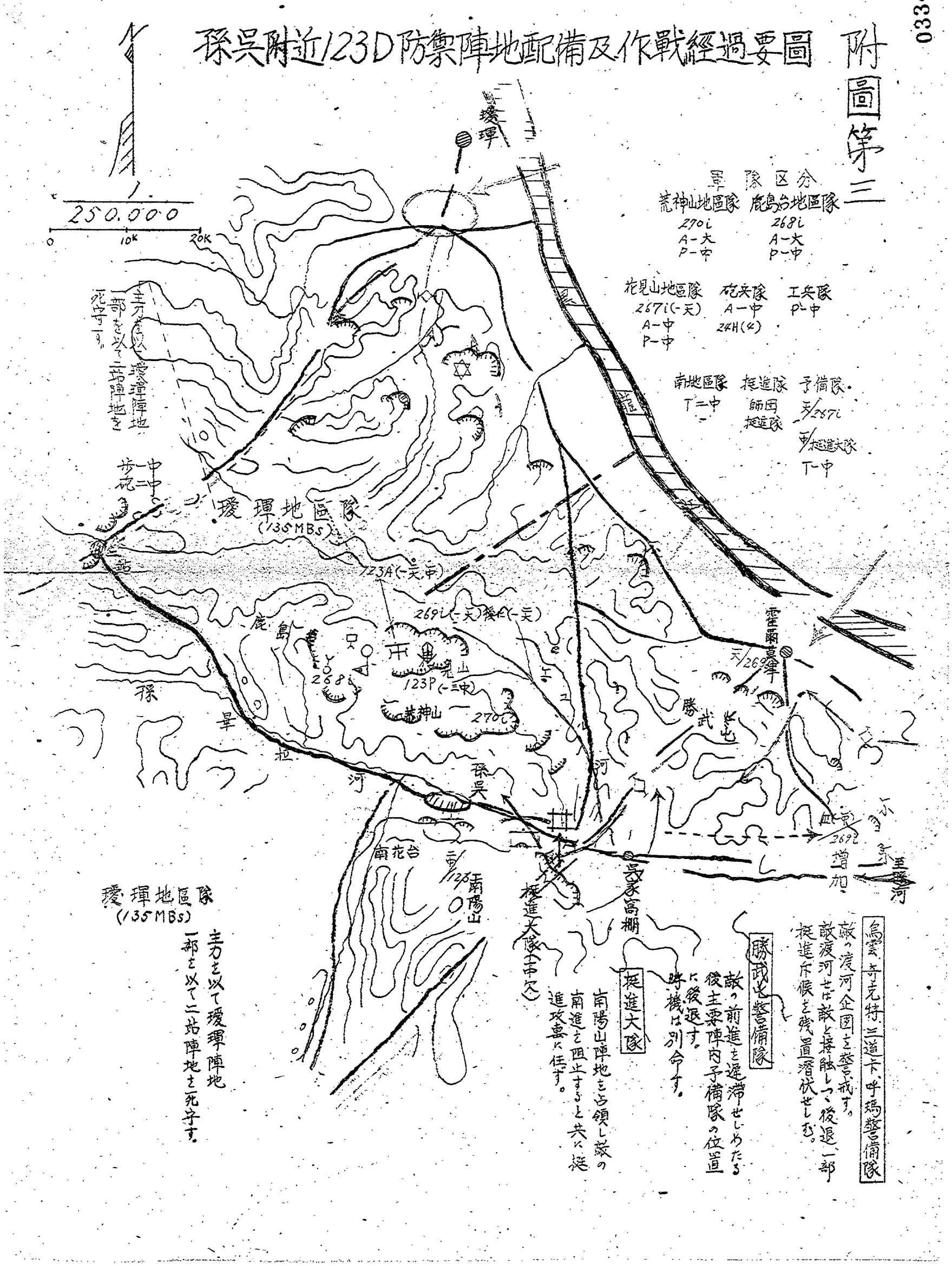
蘇聯參戰直前に於ける第百二十三師團態勢要圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第三

孫吳附近123D防禦陣地配備及作戰經過要圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp